

交流を通して成長する



上越高校柔道部監督
木下 幸彦さん

昨年の夏に、ドイツパラリンピック柔道選手とU19の柔道選手が合宿に来て、2週間毎日一緒に練習をしました。生徒たちは海外の選手と組むのは初めてだったので少し心配だったのですが、ドイツチームの和やかな雰囲気もあり、すぐに馴染むことができました。

一緒に練習をしていく中で、生徒たちが柔道のスキルはもちろん、コミュニケーション能力も身に付けていくのが分かりました。また、パラリンピック選手と練習することで特有のルールや組み方を学び、理解を深めることもできました。

海外の選手との練習は貴重な体験なので、今後も交流を続け、相互に行き来できるような関係になれたらと思っています。せっかくの機会ですから、この交流を通して、柔道に興味を持つ子どもを増やしていきたいですね。



とても貴重な経験

ドイツ選手は力も強いけど、捉えどころのない柔道をしていてとても強かったです。強い人から教えてもらえてすごく勉強になりました。初めてパラリンピック柔道の選手と組みましたが、視覚障害があるとは思えないくらい他の選手と組むのと変わらない感覚でした。休憩時間では、選手と握手し、柔道について話すことができ、貴重な体験になりました。2月の合宿で、また一緒に練習できるのが今からとても楽しみです。日本はもちろん、ドイツ選手も応援しています。

柔道で投げたり投げられたりするのには痛くないし、とても楽しいです。小学生では全国大会に行けず、悔いの残る結果だったので、中学校では全国への切符をつかみたいですね。



上越柔道クラブ副キャプテン
白川 真利奈さん



クラブでの練習の様子

今後の取り組みについて

オリンピック・パラリンピックイヤーの本年は、ドイツのホストタウンとして、2月にパラリンピック柔道、7月には体操チームの事前合宿を受け入れ、世界レベルのアスリートが当市にやってきます。また、オリンピック聖火リレーやパラリンピック聖火フェスティバルも市内で実施されます。今後も市民の皆さんが東京2020オリンピック・パラリンピックをより身近に感じ、その魅力や感動を存分に体感していただけるように、さまざまな情報を広報上越やSNSなどを通じてお届けしていきます。

また、ドイツチームとの国籍や文化を超えた触れ合いの一つ一つが、皆さんの世界を広げ、新しい夢や目標を持つきっかけとなるように、2020年以降のドイツとの交流を見据えて今後も取り組みを進めていきます。

■問合せ…オリンピック・パラリンピック推進室 (☎025-545-9216)

東京2020オリンピック競技大会まであと
東京2020パラリンピック競技大会まであと

191日
233日



※令和2年1月15日現在